



女教訓  
賢女心假粧  
五

660  
5





賢女公化粧

五之巻

目録

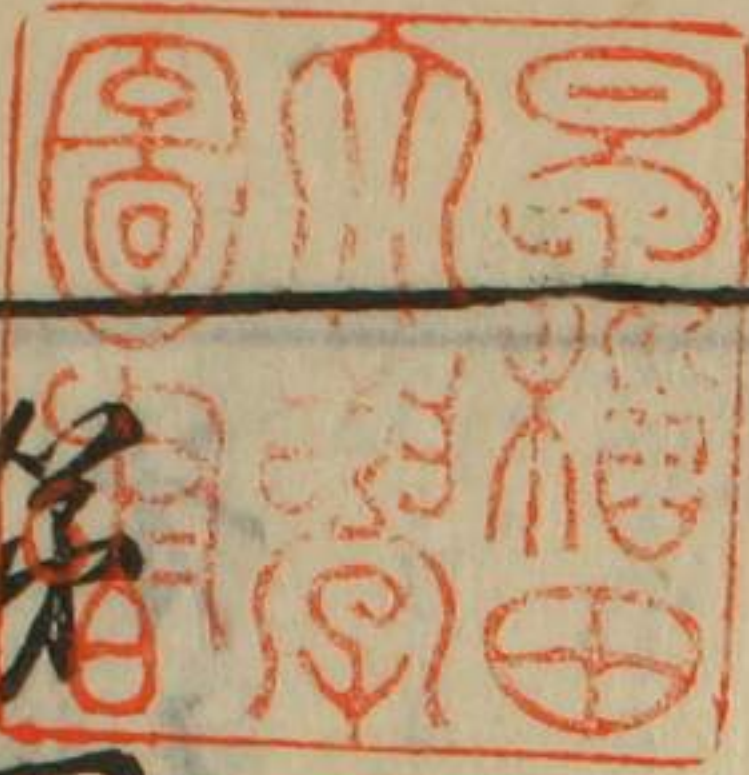
第一

表と張批の端流を尋る柱女の真

意と情と塔のそびあがるの紫雲の里

女の名の地獄を極楽れ道の花の歌

姑よまほしういさうかぶ孝をこんか





才二 今ねいけ合村は持おの百姓賢氣

田舎を芝居のきまのどしぬ役者似  
藝小きの宵友と重い評判の動喧

あつて見せさる女房のまこ子に立合て家理

才三 名人とせうよ明遊が細術の持術

聲を探ひ男乃公の香がしん花嫁

南庄の棧精おりのよお枕がさるを

筆小おと公の流居へほ世の女も介

表と張批燈の端端流を立は持女乃ま

古今も小。修成持女らるごとくまなく。皆ゆりあて人を  
御とといひ侍たは。持女にゆりて。實あつて。直さるる  
女もあざどし。判友及のおもされ。破の襟師が。箱の静。男我  
の持女。い。實と。立。大破の虎か。人の妻女。より。い。ま。あ。る  
なり。業のせに。あ。つて。り。ま。ね。い。す。り。女。あ。い。な。ら。る。大。片。お  
あ。い。ろ。く。笑。わ。る。男。に。お。提。り。て。を。又。い。親。方。を。女。の。同。族。と  
あ。じ。を。は。く。と。中。戸。の。出。合。を。皆。お。の。つ。け。情。を。知。る。ま。の。を  
う。ら。う。ら。う。が。つ。ま。お。提。り。あ。い。を。お。す。る。底。の。持。女。本。へ。あ。り。付。れ。  
う。ね。や。あ。つ。て。あ。い。ろ。く。同。族。の。ま。と。あ。い。切。ぬ。を。屋。中。に。提。り。い  
天。と。井。の。り。深。い。を。い。や。も。その。も。泉。列。傳。の。る。原。と。い。ふ。名。里。お。高

















女がうらぐく  
あうとり者め  
のためとんど  
れととひく

与ぬろ  
豆んない  
うりて  
かへか

根菜鬼せんべい  
せんべい



炬湯屋

出のいの  
子とさる

らう  
るま  
らう

与ぬろふのひ  
たまわい

色紙  
思入











































